

2019年7月19日

2019年5月25日 2019年 ICFO 総会について（報告）

非営利組織評価センター
杉田

1. ICFO 会議スケジュール

5月24日(金) チェコ 市民セクターカンファレンス

5月25日(土) チェコ ICFO 年次総会

2. 市民セクターカンファレンス

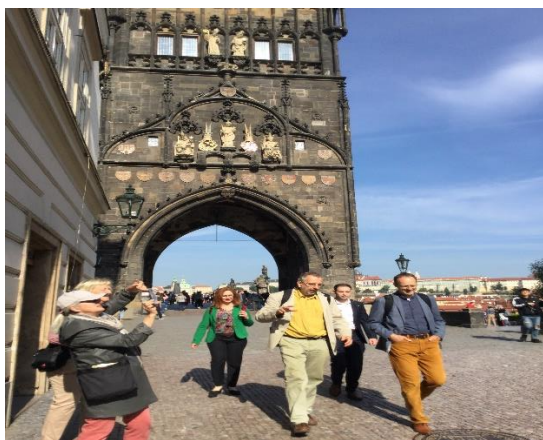
開催国：チェコ共和国

日程：2019年5月24日

ホスト国：CVBO（Association of Public Benefit Organizations Czech Republic）

日程：2019年5月24日

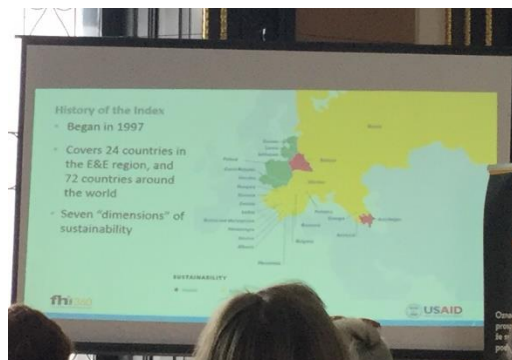
チェコ国での市民セクターに関わる国内の組織が集まるカンファレンス



報告1：

ICFO のマルチナ代表より挨拶

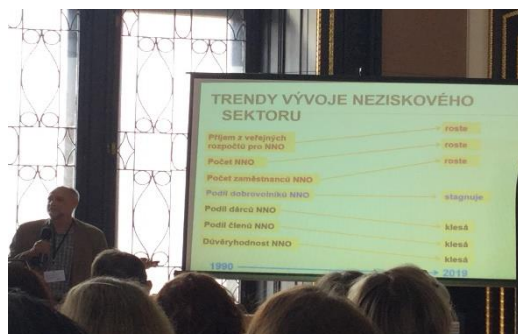
ヨーロッパとユーラシアの NGO イメージについて研究している団体報告があった。



ドイツ語、チェコ語を理解する参加者が多い中、120名の参加がいたが、会場が歴史的な建物であり、音響が素晴らしい反面。会場のスピーカーの方がレーザー自体の音を消すほどの環境であったため、多くの人が内容を理解しづらかった。

報告 2 :

チェコの非営利組織と市民セクターの考えについては、大学教授のより考え方についての講義がおこなわれた。



Údaje v %	ano	ne	Celkem
Tradiční zájmové NNO	26	74	100
Servisní NNO	71	29	100
Právní advokační NNO	51	49	100
Nové advokační NNO	51	49	100
Církevní a náboženské NNO	67	33	100

報告 3 :

チェコの認証団体からの認証方法と認証プライズの仕組みについての説明があった。「ゴールデンバナナ」中身をみなければわからないという発想のものとプログラム。



報告 4 :

ドイツのバリヤ氏からは、アニュアルレポートの作成と利用用法のコツについて発表があった。



Publishing an Annual Report – FOR MANY PUPOSES

- In some countries: OBLIGATORY by law
- In all countries: Providing ACCOUNTABILITY & TRANSPARENCY
- Making the activities of your NPO VISIBLE
- ORIENTATION and PROTECTION for Stakeholders
- VISIBILITY and TRANSPARENCY for the whole NPO sector
- Making it more difficult for populist movements to blame NPOs as being „intransparent“
- Basis for QUALITY ASSURANCE and QUALITY DEVELOPMENT

Annual Report – FOR WHOM?

- private donors
- corporate donors
- supervisory bodies
- members
- public authorities (supervision or subsidies)
- media
- partner organisations (collaboration & cooperation)
- clients and beneficiaries of the programs
- staff members – paid and volunteering

Annual Reports provide multiple content

1. structures & procedures of your organisation
2. mission and goals
3. activities
4. impact analysis
5. salaries
6. PR and fundraising
7. finances
8. audits, certificates, self commitments
9. website information

余りにも多くの組織がアニュアルレポートを作成することが目的になっており、レポートを利用することの視点が抜けている。レポートには、優れた多くの情報が掲載されているので、有効利用することが重要ですよという部分が印象的でした。

報告 5 :

チェコの認証団体からの認証方法と認証プライズの仕組みについての説明があった。「ゴールデンバナナ」中身をみなければわからないという発想のもののプログラム。



午後の部

カンファレンス参加者は大きく4つのWSへと別れた。

この4つのWSとは別に、同時時間帯で ICFO メンバーとハンガリー、スロバキア、ポーランドでの評価機関を加えたWSを開催。

特に東ヨーロッパについての現状がよくわかった。



特に印象的だったポーランドとスロバキア

「ハンガリー」

Charity Compass Foundation (2012年 NIOK 財団より設立された組織スタッフ 35名)
1989年に市民社会組織の設立が開始、2017年は54,000の組織が教会を背景としたいくつかの強力な組織が活動している。資金構成：公共41%、個人23%、サービス26%、企業年金8%。特別公的資金：個人所得税の1%、法人税の80%。

2つの主な形式：協会または財団。「スポーツ団体」のみ49,000人の雇用、35万人のボランティアが活動している。スポーツ団体が=CSOという考えがよい。

CSOについて

積極的ではなく真のNGOではない。昔からの組織と進歩的な若い組織が混在している。共通しているのは、多くのCSOにとって財源の不足は問題である。また、公共の信頼のレベルが十分ではないため、個人寄付もほとんどない。(例、50%の税金1%がどの組織にも提供されていません)。

一方で、特に企業部門では、ボランティア活動は馴染み深く、ますます寛容になっています。加えて、中学生のための義務的公益労働(40時間)などの取り組みもあります。

CSOの多くは専門的ではありますが、政府との間の協力関係はありません。更に現在のCSOは「政治的PR行動」を強調する上で(「透明性法」、「移民法」)を説明する際の一部として引用されている状態。

「ポーランド」

2018年時点、117,000協会と26,000財団で合計約143,000登録組織があり、実際に活動は盛んです。平均的な組織は約10年間運営されていて、5年未満の組織の数は、15年以上の歴史を持つ組織の数と同数です。

活動場所：主に大都市や農村部で組織は主に自治体や地域の活動に積極的であり、全国的にも活動しています。海外活動しているのはわずか9%です。

目的：組織は、スポーツ、観光と趣味の活動が多い。28,000団体。逆に希少な活動組織は、社会問題、福祉が5,000団体と地域開発4,000団体の活動です。

多種多様なターゲットグループがあります。以下が詳細。

- ・子供と青少年 - 73%
- ・地域住民・コミュニティ - 62%
- ・シニア - 39%
- ・病状、障害を持つ人々 - 25%
- ・NGO・機関 - 20%

財務状況:

2017年の平均的な組織の年間予算は28,000ズウォティ(約6,500ユーロ)、うち支配的(大きなドナー)的な年間収入は10,000-100,000Zloty(2,500-25,000ユーロ)でした。組織はさまざまなリソースを使用して事業に資金を提供しています。資金源として資金の65%が国家の公的資金を占めるタイプ、個人および制度的な慈善活動(63%)タイプが続ぎ、25%はポーランドの税法の1%の法から獲得するタイプです。商業および事業活動は23%、他のNGOからの支援は15%、外国の公的資金は11%です。

スタッフの位置づけ：1人の正社員またはチームが組織(少なくとも週に1回働く従業員)の37%に見られます。組織の平均雇用数は3人。うち1人は組織の19%で雇用契約を結んでおり、他の18%の組織は定期的に働いているが、雇用契約に基づいて雇用されている人はいない。以下ようになります。

- ・組織の37%が少なくとも1人を雇用している(長期/定期的に)
- ・組織の36%はボランティアのみに頼っている
- ・組織の27%が不規則に、または1回限りのベースで様々な仕事を契約する

平均すると30人の会員、15人の女性と15人の男性を持つこととなります。30人中10人のメンバーが実際に活動し、実際に組織の業務に従事します。

組織の63%がボランティアを活用し、年間平均6人のボランティアの稼働となります。うち少なくとも3人は月に1回は定期的にボランティア活動を行っています。

課題：組織財源の持続可能性に対する課題は最大の関心事です。更に人的資本を確保するという課題が年々高まっています。

組織は、従事する人が不足している(68%)、スタッフの定着の問題(52%)そしてリーダーシップバーンアウト(47%)、70%が資金調達と機器の獲得という課題に直面しています。

プロジェクトをカバーするための資金を最も緊急の必要性(39%)として特定しています。その他(31%)自社の業務をサポートする機器を購入したり、ニュース製品やサービスを立ち上げたりできるようにしたいと考えています。組織は、トレーニングは主に資金調達に不可欠であると言います。

組織の43%が自分達の提供する価値をコアとして挙げている。その他の高い評価は「使命感」(38%)「熱意とエンゲージメント」(36%)を付けました。「財務実績」は、組織の割合が最も低い(2%)が重要であることが分かっています。

問題：「透明性の欠如」「良い教育の機会、マニュアルなどの整備がない」「国民の信頼を悪用する事例が多発」「一部のドナーに対する低い批判」「NGOは時々通常の会社の代わりに行動する(公的契約のため)」

「スロバキア」

組織名「PROFIMVO」

組織のビジョン

- プロのNGO
- 競争力のあるNGO
- 正義、連帯、NGOによる自給自足の自由

私たちの目標

- NGOの管理と経済における幅広い経験
- NGOの持続的な問題と政府からの関心の欠如
- EUプロジェクト「NGOの効果的なガバナンスのための経済的ツール」を通じてNGOの問題を収集

イニシアチブの必要性

スロバキアのNGOの透明性は政府の手に委ねられている

- NGOの登録行為は公的資金のみの透明性を解決する(私的資金ではない)

概要

NGOと言われる組織は、2000年では約30団体。2018年時点約70団体。

法人組織または公的機関によって設立されたもの

•省庁での登録手続開始年度：

1.インテリア協会（1990）、財団（2002）、投資外資金（1997年）、チャリティ NGO（1997）

2.文化 - 教会（1991）

3.教育 - 学校（1993、2008）、スポーツ（2015）

★NGO（2018年）のみ内務省の登録になります。

一般法の整備状況

•1990年に連合法によって NGO 法が始まった

•直接の公的支援（寄付および譲渡による）および間接的な支援（免税、免税、慈善事業、集会、社会事業）に関する法律

•2012年からのボランティア活動

•公的慈善団体と一般的な慈善団体の違いは正確に定義されていません（異なる見方がされています）

慈善の政治的側面

•寄付は一般の人々にとっての付加価値ではなく、提供者のニーズとして考えられています。

•公的資金からの財政的依存がとても強い

課題：プロセス管理のための制度的安定性

•収入の種類の不十分な多様化

•プロジェクト指向モデル=多数のプロジェクト=キャパシティビルディングのためのスペース不足

•小規模商業市場=アクセスが困難な民間資金、関係ベースのモデル

•あまりにも多くの NGO が財政を求めているが補助金が少ない、日々の管理によって過負荷になっている=キャパシティビルディングのためのスペースがない

•資源不足=フルタイムの雇用における下請けの仕事の蔓延

•NGO の一般公開は、他の人々へのプラスの効果ではなく、プロジェクトを通じて非常に単純化されています。

•EU の資金、寄付、公共調達の実行、GDPR の管理上の複雑さ

NGO の透明な管理における概念「お金の価値」

•オープンガバナンスへの NGO の参加（公共社会開発副部長）

•OP 効果的な公共サービスを通じた NGO の支援 - 多部門間の協力

- NGO を効果的に統治するための経済的手段

以上についての状況や情報を ICFO メンバーともに共有することができた。

3. ICFO 年次総会



2019年5月25日
ICFO2019年総会
場所：チェコ、
プラハ市内



①アジェンダにもとづいた報告により合意が行われた。

- ・ 2018 メキシコ総会の報告
- ・ 2018 年度の報告
- ・ 2018 年度の決算と監査報告
- ・ 2018 年度の理事会の活動報告

③カンファレンスの振り返り

★東欧の NPO や評価機関と政府の考えかたについての意見交換や ICFO メンバー外での機関の情報を得たことがとても有意義であった。

④テイラーが早退をするため、「ギブコイン」と現在進めている WEB サイトについて説明を行った⑩番の予定を繰り上げ。

- ・ 評価申込から評価結果までの IT 技術をつかった結果提示
- ・ マトリックス図をつかった評価結果提示
- ・ WEB サイトをつかった結果提示

⑤ファンドレイジング世界連盟より世界のファンドレイジングの流れ



CFRE：世界のファンドレイジングについての紹介があった。

ICFO もポリシーとしては、民間資金の積極的な拡大をはかるための支援者と NPO との信頼の証しとして認証シールの発行をしているが、まだまだ努力が足りない。

今後の取組として改めて資金調達を軸にしていきたい。今回、資金調達に大きくかかわっている CFRE を招いた。資金調達を行う際の倫理がいつも問題になっています。この倫理感が非常に大切であること、世界共通での資金調達の必要性と認識をもってもらいたい。

⑦各国の報告から見る集計と分析



Where do you get the information from?	Monitored NGO	18/18
	Public offices, registries	13/18
	Public sources	9/18
	Other sources	5/18
Type of documents needed for the analysis	Annual Report	18/18
	Financial Audit	18/18
	Fundraising Appeals	16/18
	Contracts	15/18
	Registration	15/18
	Minutes	14/18
	Proceedings	13/18
	Others	4/18

★大型 NGO を評価認証している国別としては。

USA, ノルウェー、オランダ、ドイツ、スウェーデン、スイス、フランス、オーストリア

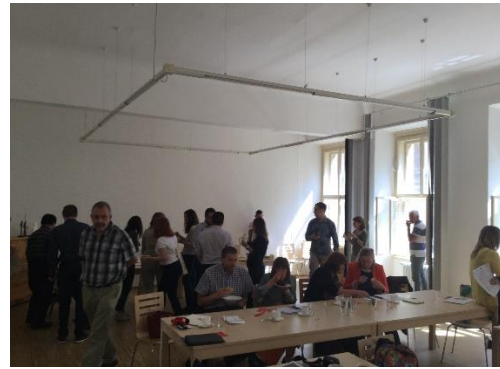
★評価方法、評価認証の期間、

最短 8 時間から最長 20 日までといった様々な評価と認証方法について全体で共有。

⑧グループ 1～グループ 4 にわかれて、それぞれの課題に基づいたワークショップを開催
計：1 時間 10 分



グループ討議の課題



ブレイク

⑨主な発表内容

(グループ1 課題)

1 ドナーについては、資金調達では10%を管理費の上限にする案。
メキシコでは、資金調達のコストは17%を超えている。

パブリッシングについて

フランスでは、パブリッシュについてユニークなWEBサイトや様々な取組があった。
スペインでは、WEBサイトでのイメージをつかった。

質問

資金調達に関わる経費については、明確な考えがないが、各国ではどう考えているのか。
子どもに関する問題としては、アドボカシーと資金調達についてはミックスで実施をしているため、難しい。

北欧では、NGOとドナーについての関係性が様々であるので、いちがいには言えない。
ドイツでは、アクションの部分についてのコストをよく見ている。低コストでの広告。

(グループ2 課題)

持続可能な社会へのシフトが重要

プロジェクトベースや団体ベースでのやり方がある。インドやノルウェー。

情報やどうしたらよいのかをWEBサイトや様々な手段をつかって、情報を提供して、ソーシャルインパクトを射かけている。NGOがシールを欲しがるように、取り組みをそろえることで、大きな流れが生まれると考えている。

(グループ3 課題)

5つの質問について協議を行った。

社会資源がとても重要である、どのように社会資源をつなげ合わせて、インパクトにするのか、大学を拠点にした取組。

コミュニケーションをどうとるのが課題。

モニタリングアイデンティ

ドナーにとってインパクト、誰にとってのインパクト、ステークホルダーへのインパクト評価につかった情報も NGO にとってはインパクトに使う情報で、社会資源でもある。

誰のための会計基準なのか、NGO は会計だけを守っている目的ではない。

セオリーチェンジが必要では

どうやったら、インパクトをおこせるのが NGO の役割であり、信頼をえるための負担をかけるバランスが難しい。

なんのためのアセスメントなのか？ NGO のためのアセスメントなのか？社会へのインパクトなのか、認証や評価だけが、よいインパクトを生み出すとは限らない。

ミニマムのグループへのケアが必要です。10のチェックリストや様々な組織基盤の強化が必要、書類だけのチェックではインパクトは生まれず、カルチャメントが必要。

(グループ4 課題)

マーケティングとしてどのようなことが必要なのか？

誰のための認証シールなのか

→NPO や NGO だけでなく、社会全体のためのもの。

どのようにシールをコミュニティが利用できるのか？

→情報にたどりつく人とたどりつかない人がいる。コミュニティも同じ。シールの情報をレベル的にわけて説明をする必要がある。行政が担う場合もあれば、支援者や NPO 自身が説明をすることも自分達の説明も行うことが重要。

→評価し認証をしてシールを発行するのみではなく、認証結果をどうコミュニティが利用するのが重要。絶えず、マーケティングをする必要がある。

CSO の置かれている環境（資金調達難や人材やリソース不足）や評価に影響をさせたい。

・スタッフやボランティアがモニタリングの結果を利用することができる。

- ・読者が判断するもの、評価に役立つものである。
- ・輔一区ホルダーへの新しい評価へのヒアリング。
- ・どのように役立っているのかを現地調査をする。
- ・評価をどのようにコストをかけないで、すばやくできるのか

⑪ICFOAGM ポリシーの説明と同意

★会員が急速におおくなったため、ICFOAGM ポリシーについて再度確認した。

場所、翻訳、コーヒブレイク、食事、ICFO メンバーのローカル交通費
講演者の旅費と宿泊費、総会及び前後の夕食費用、その他合意された費用
全てに対して領収書の保存が必要です。

★ICFO 理事会の開催のホスト国について

会議室の手配、コーヒ、理事会当日または前日の夕食費の負担

⑫2020 予算と会費について

★予算の承認及び会費については全会一致

正会員：2020 年 13 団体：2020 年 7 団体 計 20 団体

管理費：ウェブサイトのメンテナンスに充てる

理事会会議：理事会の費用に関する方針を含みます。

会員割引：一時的に、理事会は 2019 年に会費に 30%、2020 年に 50%の割引を行う。

管理体制：理事長、理事、事務長、会計監事はボランティアとして役割を果たし続ける

⑬サポーティングメンバーについての意見交換

マルチナ氏より説明

現在、サポーティングメンバーは 7 団体であり、正会員は 13 団体。正会員とサポート会員との区別もあまりありません。

サポートメンバーの皆さんへ、この中からは是非とも正会員になってもらいたいと ICFO メンバーは考えています。とくに理事選出については、これまで欧米が中心になってきたこともあり、将来はアジアからも理事になってくれる国を望んでいます。

サポートメンバーから正会員になるための具体的な資格はありません。

強いて言えば、会費ぐらいです。積極的に検討をお願いします。

⑭2020 年の ICFO 総会について

★スエーデン、ストックホルムでの開催 時期は 2020 年 6 月を予定

ホスト国：KONTO (Svensk Insamlings kontroll)

閉会